令和元年１０月３１日
福　祉　保　健　局

ノロウイルス等による感染性胃腸炎にご注意ください！

－　11月から2月は集団感染が集中する時期です　－

例年、１１月から２月にかけての時期は、保育所や幼稚園、高齢者施設などを中心に腹痛、下痢、嘔吐を主な症状とする「感染性胃腸炎」の集団感染が多数報告されています。今後の流行に備え、以下のポイントにご注意願います。特に、集団感染が危惧される各施設においては、施設の衛生的管理などに注意し対策を行ってください。

対策のポイント

○ こまめな手洗い　　○ 二枚貝の十分な加熱調理　　○ 吐物やふん便の適切処理

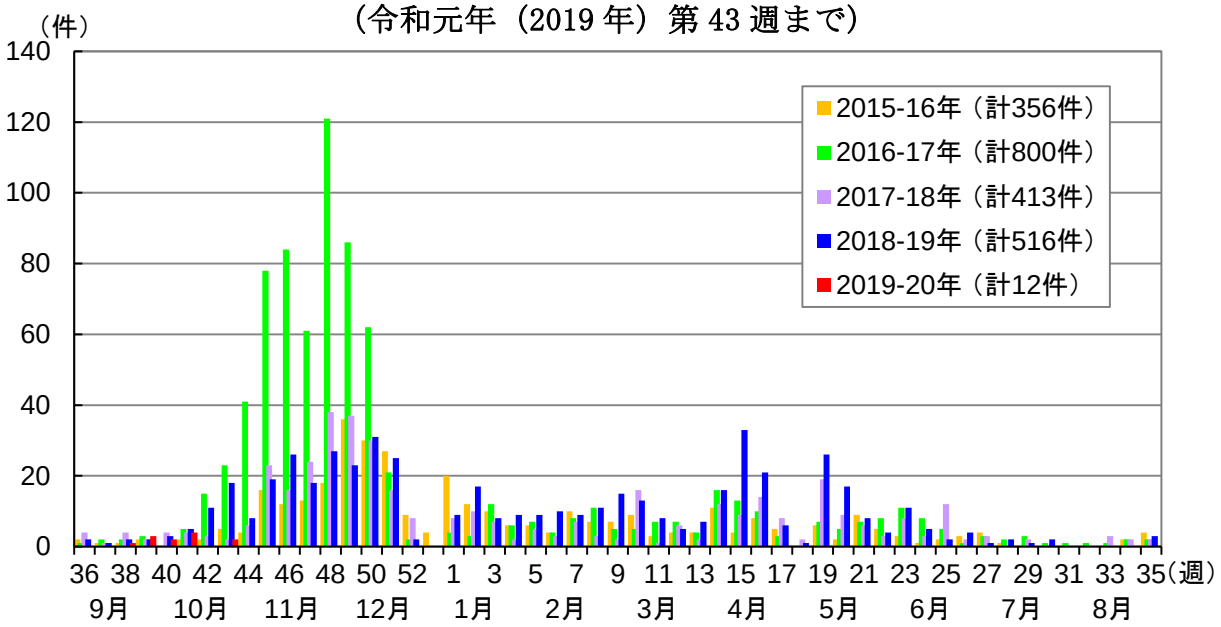
昨シーズン*は、都内の保育施設や高齢者施設等から計５１６件の集団感染事例**が報告されました（今シーズンは１０月２７日までに１２件）。

今シーズンにおける都内小児科定点医療機関（２６４か所）からの第４３週（１０月２１日～１０月２７日）の患者報告数は、３．４０人／定点（週）となっています。例年は１１月以降患者報告数が増加する傾向があります。

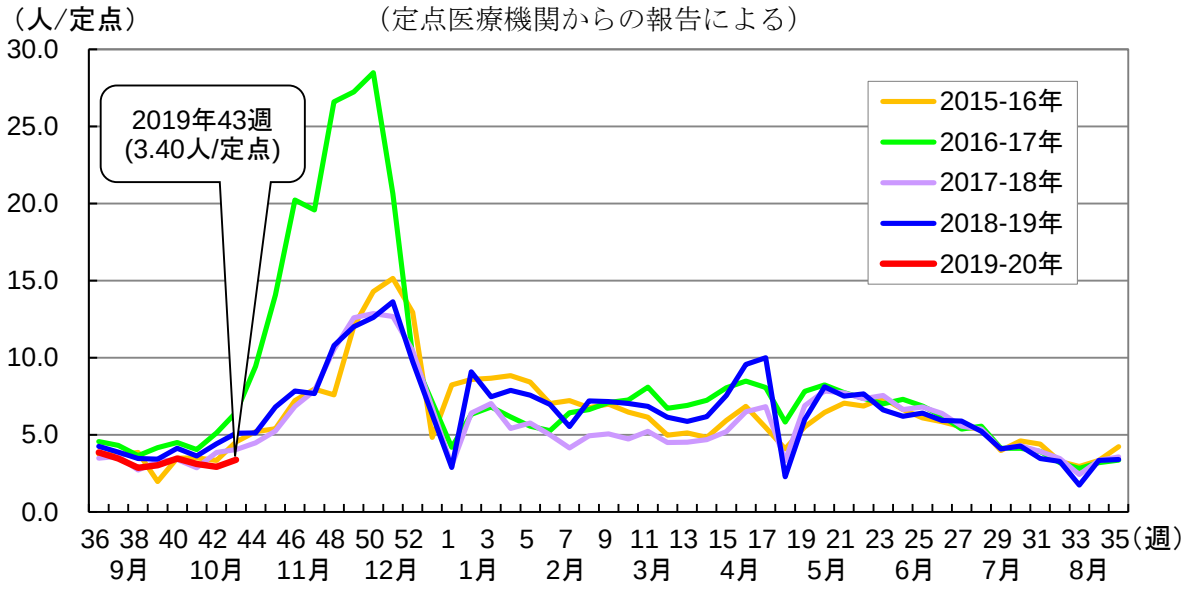
＊　シーズンとは、当該年の第３６週（９月）から、翌年の第３５週（８月）までの期間

＊＊　都内の保健所に報告があった事例のうち、同一施設で１０人以上の患者が発生し、かつ、病原体の検出が確認された事例の件数（食中毒と判断された事例を除く。）。

＜都内における感染性胃腸炎の集団感染事例報告件数＞
（令和元年（2019 年）第 43 週まで）



＜感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数推移＞



データ出典：東京都感染症発生動向調査より http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/

＜参考：流行警報基準＞

感染症発生動向調査における定点医療機関から保健所への報告において、定点当たり患者報告数が２０人／週を超えた保健所の管内人口の合計が、東京都の人口全体の３０％を超えた場合には、広域的に流行が発生・継続しているとして警報を発します。

現時点では、警報基準には達していません。

＜感染性胃腸炎に関する東京都の主な対策・情報提供＞

○ **東京都健康安全研究センターによる感染性胃腸炎に関する情報発信**

「東京都感染症情報センター」のホームページにおいて感染性胃腸炎の発生状況や発生時の対策についての情報提供を行っています。

◆「Ｗｅｂ版感染症発生動向調査」（毎週更新）
https://survey.tokyo-eiken.go.jp/epidinfo/epimenu.do

◆「感染症ひとくち情報」（感染性胃腸炎（ノロウイルス等）にご注意ください）
http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/assets/diseases/gastro/hitokuchi-joho.pdf

◆「ノロウイルス対策緊急タスクフォース最終報告」（平成２２年）
http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/gastro/noro_task/

○ **流行シーズン開始時及び警報基準到達時における都民への注意喚起**

都内における流行状況が警報基準に達した場合には報道発表を行っています。

○ **東京都のホームページにおける情報提供**

ノロウイルス等による感染性胃腸炎への対策等の情報提供を行っています。

◆「社会福祉施設等における感染症予防チェックリスト」
「学校等における感染症予防チェックリスト」
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/kansen/chetukurisuto.html

◆「社会福祉施設等におけるノロウイルス対応標準マニュアル」
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/noro/manual.html

○ **保健所における地域住民・施設等への助言・指導等の実施**

地域において施設等の実態を踏まえた助言や指導等を行っています。

感染性胃腸炎について

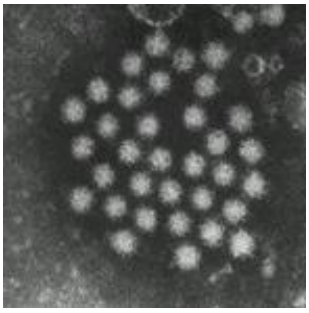
1　感染性胃腸炎とは

感染性胃腸炎とは、主にウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。

原因となるウイルスには、「ノロウイルス」、「ロタウイルス」、「サポウイルス」、「アデノウイルス」などがあり、主な症状は腹痛・下痢、嘔吐、発熱です。

「ロタウイルス」、「アデノウイルス」による胃腸炎は、乳幼児に多く見られます。

これらの胃腸炎は、症状のある期間が比較的短く、また、ウイルスの種類によって異なる治療が行われることも通常はないため、ウイルス検査を行うことなく、流行状況や症状から「感染性胃腸炎」として診断されることがあります。



写真：ノロウイルスの電子顕微鏡写真

2　原因と感染経路

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、人から人へ感染する場合と、汚染した食品を介しておこる食中毒に分けられ、次のような感染経路があります。

- ◆ 感染した人の便や吐物に触れた手指を介して、ノロウイルスが口に入った場合
- ◆ ノロウイルスを内臓に取り込んだカキやシジミなどの二枚貝を、生で又は不十分な加熱処理で食べた場合
- ◆ 感染した人が十分に手を洗わずに調理した食品を食べた場合
- ◆ 感染した人の吐物やふん便が乾燥して、細かな塵と舞い上がり、その塵と一緒にウイルスを取り込んだ（吸い込んだ）場合

3　感染予防のポイント

① まず一人ひとりが手洗いをきちんと行うことが大切です。特に排便後、調理や食事の前には、その都度、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

② カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう（中心温度 85～90℃で 90 秒間以上の加熱＊が必要です。）。

＊「大量調理施設衛生管理マニュアル」（厚生労働省）より

③ 吐物やふん便は、次亜塩素酸ナトリウム（塩素系の漂白剤）を使用し、適切に処理しましょう。

④ 吐物やふん便を処理する際は、使い捨ての手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

4　感染性胃腸炎の治療

ウイルスを原因とする感染性胃腸炎には特別な治療方法はなく、つらい症状を軽減するための処置（対症療法）が行われます。乳幼児や高齢者では下痢等による脱水症状を生じることがありますので、早めに医療機関を受診することが大切です。

特に、高齢者は、誤えん（嘔吐物が気管に入る）による肺炎を起こすことがあるため、体調の変化に注意しましょう。

嘔吐の症状がおさまったら、少しずつ水分を補給し、安静に努め、回復期には消化しやすい食事をとるように心がけましょう。